



I-OWA マンスリー・セミナー講演より 人生を通じて学ぶお金と投資のこと~2

講演：岡本 和久
レポーター：赤堀 薫里

私はマネー教育や経済教育は0歳から始まると考えています。経済学の基本は希少性をどう取り扱うか。人間は常に持っている資源で作れる以上のものを欲しがります。欲しいもの全部を満たすことはできないので、選択が生じます。そこでトレードオフの関係が生まれます。諦めた方は機会コストとなり、その結果は自己責任になります。この経済学の基本は学ぶべきことが多いでしょう。0歳であってもおむつの取り換え VS.ミルクが欲しいという二者択一の問題に赤ちゃんも直面しているのです。

「我慢」をしなくてはならない。そこで「知足」を学びます。同時に希少性があるから生産性をあげなくてはならないので、みんなで分業をすることが必要。分業の前提は皆が仲良くすること。国際分業するには世界平和でなくては いけません。つまり、経済学は平和を必要としているのです。

ピギーちゃんとの付き合いは、最初はおもちゃとして遊んでいればいいと思います。次第に穴が四つ空いていることに気付くでしょう。その段階で「つかう・ためる・ゆずる・ふやす」の違いを分かるようにすればいいです。



中学生位になったら、個別銘柄の投資をそろそろ始めていいと思います。ジュニア NISA という子ども向けの非課税制度を使うのがいいでしょう。ここで大切なことは子どもが考え、選んだ銘柄を購入すること、そして、一部であってもお金を子どもにも出させることです。このような体験で株式市場の仕組みがわかり、株式会社が世の中でどんな役割を果たしているのか知ることができるでしょう。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

さて、どうやって子どもたちにお金について話をすればいいでしょうか。子ども達は、お金について基礎的なことを知らなくとも、理解力は非常に高いのです。家庭内の会話の中にお金のことを入れ、生活や仕事の中でお金の流れを教えてあげる。例えば、お父さんはどんな仕事をしていて、それは世の中でどんな役割を果たし、どんな人に喜ばれているのか伝わるように話してあげる。次世代のためにお金のことをちゃんと理解する必要があるのです、まずは保護者に、お金のことを知ってもらいたいものです。

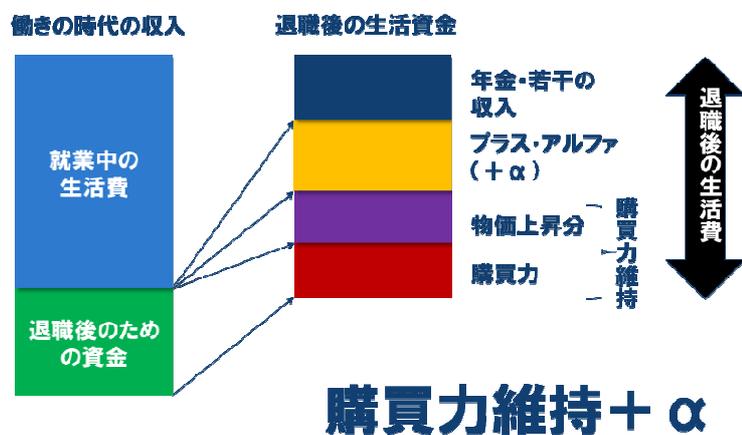
高校を卒業したら、退職後のための資産形成を始めるのが理想的です。それは人生を通じての資産運用はすごく簡単です。要するに全世界の株式インデックスファンドをできる範囲で積立投資をすればいいのです。ちょうど、毎日歯磨きをする感覚で生活に身近なものになってもらえるといいですね。特別にエキサイティングでも楽しくなくてもいい。ただ若いうちから続けていると年取って健康な歯に恵まれる。資産運用も同じです。

今の収入を、今、全部使ってしまうと退職後に使うお金がありません。「将来の自分を支えるのは、企業でも国でもなく今の自分が支える」という意識を持つか持たないかでは、退職後に大きな違いが生じます。退職した後の一番の大きなリスクは、生活の質が下がってしまうことです。

例えば、今まで 100 で暮らしていた収入、もしくは使えるお金が突如 10 になってしまったら淋しいことですよね。どうやって生活の質を下げないようにするのか。

例えば、30 歳の方が 65 歳まで 36 年間、100 の収入のうち、70 を今の生活費として使い、残りの 30 を退職後の資金として取っておくとして。36 年後、仮に物価上昇が毎年 2% 起こった場合、モノの値段は倍になるため、使えるお金の価値は半分になります。

どのようにして生活の質を維持するか



つまり、ただ貯めるだけではなく、物価上昇分だけ資産を増やしていく必要があります。しかし、仮にインフレ率並みのリターンで運用できたとしても、70 で暮らしていたものが 30 の実質価値で暮らすわけですから大幅に落ち込んでいます。もう少しプラス α が欲しい。それに年金や、若干の収入を加えてなんとか退職後の生活が価値として維持できます。つまり、資産運用の目的は、「購買力の維持とプラス α 」ということになります。そのためには、全世界の株式インデックスファンドを若い時から積立投資をして、相場に惑わされずにひたすら続けることです。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

講演の後半では、なぜ株式に投資をするのか？インデックスファンド(投信)って何か？なぜグローバルに投資をするのか？積立投資ってどうしたらいいのか？相場に惑わされない方法について、わかりやすく解説くださいました。最後に、物心両面で豊かな人生を生きるためには、空間軸や時間軸という意識の拡大こそ、資産運用でも生活をするうえでも非常に重要なことであると結ばれました。

